



# まほろん通信

VOL.11

(平成16年1月15日発行)  
(財)福島県文化振興事業団  
福島県文化財センター白河館  
〒961-0835  
白河市白坂字一里段86  
TEL 0248-21-0700 (代)  
FAX 0248-21-1075  
URL <http://www.mahoron.fks.ed.jp>



## 本年度のおでかけまほろん

まほろんでは、当館の活動を多くの方に知っていただけるよう、「いろいろな事情でまほろんへは、なかなか行けない」という学校や公民館などを対象として、「おでかけまほろん」を実施しています。本年度は、前期(4～7月)に4ヵ所、後期(9～2月)に5ヵ所の計9ヵ所で実施しました。実施したところは、小学校4校、中学校3校、養護学校1校、公民館1ヵ所でした。地域別で見ると、中通り地方7ヵ所、会津地方2ヵ所となっています。

内容は、当館職員2名を派遣した体験学習プログラムを中心にした活動で、勾玉づくりを実施した場所が5ヵ所、火おこし体験を実施した場所が7ヵ所となっています。体験学習プログラムの中では、火おこし体験が一番人気があります。また、当館の収蔵品を持って行って、実際に触ってもらう体験をしたところも4ヵ所ありました。

学校では、学習プログラムの1コマとしておでかけまほろんを利用したところもありました。また、変わったところでは、当日、土器を使った料理体験を実施した学校もありました。公民館では、地域の少年教室プログラムの中に取り入れ、地元歴史愛好会の方の協力もいただいております。

上の写真は、郡山市の御代田小学校に行った時に、当館の職員が収蔵品の縄文土器の説明をしているところです。

平成16年度も「おでかけまほろん」を実施する予定ですので、是非お申し込みください。

## 鉄づくりイベント報告 1

「やったー！！34kg。」日本で初めて、原寸大で復元した古代製鉄炉で“できた鉄”の重さがわかった瞬間です。昨年11月1・2日の両日、まほろん体験広場において、踏みふいごにより炉に風を送り、木炭を燃やし、砂鉄を溶かして、鉄を取り出す『鉄づくり』イベントが開催されました。今回と次回の2回にわたり、まほろんプロジェクトと言うべきこの鉄づくりについてのお話をいたします。

古代の人々が製作し、使用したものを考古学では“遺物”と呼びます。まほろんでは、この遺物を検討し、古代の技術や素材をできる限り復元して、今によみがえらせる復元研究事業を行っています。今回の鉄づくりもこの事業の一つであり、今から1,200年ほど前の平安時代の製鉄工人が作った“鉄”が対象となりました。”

復元した製鉄炉は、福島県鹿島町にある大船迫A遺



発見された倒壊した炉壁（15号製鉄炉）



整然とならんだ羽口

跡15号製鉄炉です。この炉は、操業中に壁が倒れた状態で発見されました。炉は、送風装置として踏みふいごをもち、ふいごでできた風を通すトンネル状の溝と羽口と呼ばれる土管がつながっていました。このため、炉の中に風が入る状態が初めて確認された炉です。

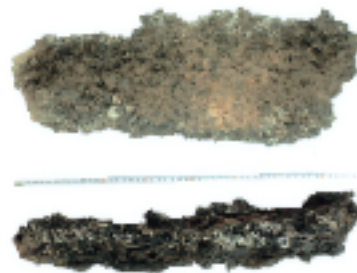
さらに、炉の壁が倒壊していたため、炉の大きさ、特に炉の高さが推定できました。

当時の製鉄炉は、1回の操業ごとに炉を壊し、鉄を取り出すため、操業が成功した場合、炉の大きさを推定することがほとんどできません。まさに、過去の重大失敗が、今回のプロジェクトを支えたのです。

さて、鉄づくりは、最初に15号製鉄炉を分析・検討することから始まりました。炉の幅・長さ・高さの他、送風装置である踏みふいごや踏み板の規模が検討され、羽口の設置方法や燃料である炭の選択、原料の砂鉄や、炉材となる粘土の検討などが行われました。

この過程で最も苦慮したのは、粘土の選択でした。

炉内の温度は最高1,400℃にまで上がりますから、熱に強いことはもちろんですが、逆に、砂鉄が溶けて鉄とそれ以外の不純物に分か



できた鉄のようす

れるときには、不純物を取り込み易いように、粘土がある程度溶けなければなりません。このように、相矛盾した要素を持つ粘土を選び出すことが、鉄の操業には最低限必要なことなのです。”

実際の炉づくりは、イベント開始の1ヵ月前から行いました。それ以前には、砂鉄の選別作業や羽口づくり、木炭の小割作業などの諸作業を行いました。

最初に、炉を構築する場所の乾燥を行いました。軽トラック4台分ほどのマキを2日間ほどかけて燃やし、乾燥させました。



羽口つくりのようす

次に行ったのは、基礎構造と呼ばれる炉の下に相当する部分の構築です。幅120cm、長さ150cm、深さ50cmの長方形の穴を掘り、この穴の中でマキを焚いて、下火になったところで、土をかけ、たたき締めます。この作業を繰り返し行い、前述の穴がすべて埋めるまで続けます。炉の下を十二分に乾燥させないと、湿気により操業がうまくいかないからです。基礎構造の構築には2日を要しました。

基礎構造が完成すると、ようやく炉の構築になります。復元する製鉄炉と同様に、ふいごと炉の距離・位置を決め、炉の中に風を送る羽口を設置し、粘土ブロックを積んで構築していきます。底から50cmほど



計測して復元炉の場所を決めています



粘土を並べて炉をつくります

の高さになった段階で、炉の中と外からマキを燃やし、一度乾燥させます。乾燥が終了すると、さらに粘土を積んで、炉を高くし、強制的に乾燥させるため、炉の中と外から火を焚きます。

構築した炉は、幅60 cm、長さ110 cm、高さ110 cmでした。

復元対象とした古代の製鉄炉の推定規模は、幅60 cm、長さ210 cm、高さ110 cmでしたから、長さにして1 mほど短い炉となりました。炉の構築には、4日間かかりました。

## まほろん春のてんじ

### 新編陸奥国風土記

#### —巻之三 安積郡—

期間 3月13日(土)～5月16日(日)

まほろんの春のてんじは、古代安積郡(郡山市と田村郡)の収蔵資料についてご紹介します。

縄文時代では、三春ダム関連の遺跡、古墳時代では郡山市の正直A遺跡、中近世では、東北横断自動車道路関連発掘調査によって得られた、遺跡からの出土品や写真パネルを展示する予定です。

是非ご来館ください。

## 体験学習

### 弥生グルメ祭

12月7日の日曜日、「弥生時代の料理はこんなかな?」と思うものを作って参加者の皆さんと食べました。今回のメニューは、古代米を主食に構成しました。

鹿鍋:材料は鹿の肉、キノコ、山菜、里芋、味付けは塩だけです。あっさり味でとてもおいしくできました。鹿肉は煮込むと固くなり、アクも出るのであまり煮こまないのがコツかもしれません。鍋には、復元した弥生土器を使いました。肉は石器で、参加者のみなさんに切ってもらいました。

サケ鍋:鹿肉の代わりにサケを使ったもので、サンペイ汁と大差ありません。

ごはん:赤米を土器で炊きました。米は長めに水にひたすのがコツのようです。炊くときは土器に蓋をしましたが、気密性が低いため、蒸らしがうまくいきません。土器で作るなら、お粥の方が向いているかもしれません。

チマキ:赤米を笹の葉でくるんで、弥生土器で煮てみました。チマキのような形をしたお米の固まりが、弥生時代の遺跡からみつかっています。

オモチ:弥生時代にオモチを食べていたかは分かりま



炉の周りで火を焚いて乾燥させます

このような作業が終了し、ようやくイベント当日の朝を迎えられました。

本番を迎えた鉄づくり、大勢の方に参加していただいたふいご踏み、砂鉄や木炭を投入したようすについては、次回にお話しいたします。お楽しみに。



<三春町柴原A遺跡出土注口土器>



<鹿鍋を煮込んでいるようす>

せんが、遺跡から出土したもののそっくりにした堅杵と臼でモチをついてもらいました。

栗のデザート:栗をすりつぶしたものに、卵の黄味、はちみつを加え、くず粉で水饅頭ふうにしてみました。食感が楽しいお菓子になりました。

前回の縄文料理と違って、お米が使えるので、今の食事と遜色ないメニューができました。お米はドンダに比べ、格段においしいですね。最近では、お米は1日一回食べるか食べないかという人も多いかと思いますが、「お米はエライ!」と感じた行事でした。

## 研修課より

### 「無形の文化財コース」

無形の文化財とは、町や村で昔から行われているお祭り、お年寄りが言い伝えている昔話、あるいは伝統的なもの作りの技術などを言います。

文化財研修「無形の文化財コース」では、これら無形の文化財の保存や調査・研究の方法について研修します。11月12日から14日の3日間行った研修では、福島県における無形の文化財保護の現状や、現在進行している調査について学ぶとともに、無形の文化財調査の実習も行いました。実習は、矢吹町明新地区に伝わる「明新獅子舞」の伝承者から聞き取り調査をしました。明新獅子舞は、大正7年から継承者がなく絶えていましたが、地区住民のうち、子供の頃に獅子舞を経験した人たちが保存会を結成し、昭和58年に復活した民俗芸能です。研修参加者の中には、同様の獅子舞の継承問題について取り組んでおられる方もいて、最終日には失われつつある無形の文化財をどのように継承していくか、研修参加者で意見交換を行いました。

### 「時代別研究コース」

まほろんに収蔵されている遺物を観察しながら、その遺物が使われた時代の研究成果を学ぶ文化財研修が「時

## 総務管理課より

### 新職員紹介

総務管理課の新職員である「柳沼美和」と「印田さやか」を紹介します。二人は経理・庶務と「まほろんショップ」の販売を担当しています。

「まほろんでの仕事の感想は？」

柳沼：「毎日が勉強になり、とても充実しています。」

印田：「慣れない部分もありますが楽しみながら仕事をしています。」

「まほろんのお勧めスポットは？」

柳沼：「外の景色を見ながら、ゆっくりとくつろげるプロムナードギャラリーです。」

印田：「ご持参いただければ、飲食可能ですので、ぜひ

## まほろんからのお知らせ

### 出火のおわび

11月24日未明に出火焼失した「奈良時代の家」の火災につきましては、みなさまにご迷惑とご心配をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

今後、二度とこのようなことの無いよう、施設の安全管理に万全を期してまいりますので、ご安心ください。



### ＜時代別研究コースのようす＞

時代別研究コース」です。一昨年は「奈良時代」の遺物を中心に、昨年は「中・近世」の陶磁器の編年を研修しました。今年は時代を遡って「縄文時代早期」の土器研究について、12月10日と11日の2日間研修を行いました。

まほろんには、昭和48年に東北新幹線建設に先立って調査された白河市の泉川遺跡をはじめ、県内各地の縄文早期土器の資料が充実しています。

研修参加者は、講師から当日配布された資料の図をもとに縄文早期土器の形・文様の特徴や変化のようすを学習しました。その後、実物を手にとって、図ではわからない焼きや胎土などの質感を確かめ、理解を深めています。



ご利用ください。」

「それでは、最後に抱負やメッセージをお願いします。」

柳沼・印田：「来てくださった方に『もう一度来たいな』と思っていただけるように、がんばりますので、みなさん、ぜひ遊びに来てください。」

### おでかけまほろん募集

平成16年度の「おでかけまほろん」の募集を当館のホームページ等を通じて1月末～2月初め頃行う予定です。

ご希望の学校・公民館等の皆様はお見逃しなく！



期 日	講演会・実技講座・イベント	内 容	募集締切	募集人数	対 象	材料費等
1月25日(日)	文化財講座	原始・古代の「衣」	先着順	60名	どなたでも	無料
2月21日(土)	土偶・土面の野焼き	1月17日に作った土偶・土面を焼きます	—	—	—	—
2月22日(日)	文化財講座	原始・古代の「食」	先着順	60名	どなたでも	無料
3月20日(土)	石器づくり	石を割って石器をつくります	3月5日	20名	小学生4年生以上	200円
3月28日(日)	文化財講座	原始・古代の「住」	先着順	60名	どなたでも	無料